

29年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 3月1日～ 29年3月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 31.3	△ 25.0	△ 31.3
	マツ	△ 44.4	△ 44.4	△ 44.4
	広葉樹	△ 22.2	△ 22.2	△ 22.2
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 31.3	△ 18.8	△ 31.3
	マツ	△ 38.9	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 16.7	△ 16.7	△ 22.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 37.5	△ 31.3	△ 25.0
	マツ	△ 44.4	△ 44.4	△ 44.4
	広葉樹	△ 33.3	△ 33.3	△ 22.2

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は3カ月連続で減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/3月	4月	5月
スギ・ヒノキ	6.3	12.5	6.3
マツ類	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1
広葉樹	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキはやや強含みだが、マツ類及び広葉樹はやや弱含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・バイオ稼働で材料不足が続いている状態（東北）。
- ・スギのシステム販売が終了するため入荷減。広葉樹は天候回復とともに多少の増加。在庫はスギは3.0から4.0ヵ月、マツは4.5から3.5ヵ月、広葉樹は0.5から0.6ヵ月（東北）。
- ・仕入れ、消費、在庫の状況はともに変動なし(中国)。
- ・天候の影響で入荷消費共に今月は減少、翌月、翌々月は天候が安定し、仕入れやや増及び横ばい。在庫は、当月やや減少、翌月やや増見込み、翌々月は横ばい（四国）。
- ・2月は見込みより全樹種とも多く入荷した。天候がよければ春の間は多めの水準で入荷が続く。製紙用は3月～4月は通常より多めの出荷が続く。2月も多めの横ばい。広葉樹は2月は工場都合により減産していたため3月は増加、4月もこのまま継続する。5月は製紙工場休業により全樹種減産の予定。在庫は3月、4月は針葉樹、広葉樹共にフル操業のためやや減少。5月は減産の予定なので積み増す（九州）。
- ・広葉樹は材が入らない、消費は仕入状況に応じた生産、在庫は横ばい（九州）。

(原木価格)

- ・樹種を問わず上昇傾向（東北）。
- ・変動なし(中国)。
- ・製紙用の針葉樹は発電用と競合するため、生産増加に対応するためには高値の原木も集荷せざるを得ない。広葉樹はしばらく現状維持。発電用間伐材等もそのまま（九州）。
- ・広葉樹の価格は横ばい（九州）。

29年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 28.6	△ 28.6	△ 35.7
	マツ類	△ 31.3	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	6.3	△ 6.3	△ 12.5
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 28.6	△ 21.4	△ 28.6
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	6.3	△ 6.3	△ 12.5
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 41.7	△ 50.0	△ 50.0
	マツ類	△ 42.9	△ 42.9	△ 42.9
	広葉樹	△ 21.4	△ 28.6	△ 28.6

・木材チップの生産、出荷及び在庫動向は、全般的に3カ月連続で減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/3月	4月	5月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は3カ月連続で横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギは燃料向けの出荷が増加、広葉樹は減少の傾向（東北）。
- ・生産、出荷、在庫に変動なし(中国)。
- ・生産、出荷、在庫とも当月は減少傾向、翌月はやや増、翌々月は横ばい（四国）。
- ・生産・出荷は、製紙用は針葉樹・広葉樹ともにフル稼働での出荷要請が来ている。（九州）。
- ・他業者よりスギチップを購入、粗飼料、敷料、土壌用を取扱う。広葉樹原木の入荷に応じた生産、翌月よりやや出荷増、広葉樹在庫をサイロに少し（九州）。

(木材チップ価格)

- ・特に変更なし(東北)。
- ・変動なし(中国)。
- ・全樹種、新年度からも変化なし（九州）。
- ・現状維持（九州）。